

パソコン入力検定を通してパソコンへの興味とチャレンジ意欲を育てるスキルアップ型の授業の取組

【学校名：千葉県立袖ヶ浦特別支援学校】

～取組のポイント～

キーボードを打ちやすくすることで入力速度の向上につなげるなど、生徒の障害の状況に応じた補助具や環境設定を工夫した。タイピングの技術向上を生徒自身が実感することで、パソコン操作への興味と学習への意欲が高まった。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

中学部、高等部に在籍している生徒のうち希望者

(2) 教科・領域

- ・ 中学部は技術科で、高等部は情報の授業でパソコン入力の学習を実施。
- ・ 希望者には、「千葉県特別支援学校キャリア教育推進協議会」が主催するパソコン入力検定の受検に向けた学習を実施。

(3) 目標

- ・ パソコンを使った文字入力に、意欲的に取り組むことができる。
- ・ パソコンを使うことに、より興味を持つことができる。
- ・ パソコン入力検定に向け、入力能力の向上と文書作成の仕方を覚えることができる。

(4) 学習計画

時期	内容
9月下旬	検定についてのガイダンスを実施。 検定に向けて授業の中で練習に取り組み始める。
10月中旬	検定級を決定し、検定申込用紙を提出する。
11月6日	検定実施期間開始 ※授業時間や放課後の時間を活用して検定を実施。
12月1日	検定実施期間終了
12月上旬	検定合格発表、検定証の授与

2. 実践の内容

情報の授業時間などを利用して、タイピングや文章作成の練習に取り組んだ。時間を計りながら、本番と同様の環境での練習に取り組んだ（写真①）。また、今年度用の練習問題だけでなく、昨年度の検定問題を利用しながら練習を積み重ね、受検する級を決めた。



写真①

3. 工夫点

デスクトップとノートパソコンのキーボードの打ちやすさを比較したり、キーボードの位置を変えたりしながら、入力しやすい環境を探った。デスクトップのキーボードはキーが出っ張っており、キーの間の溝が大きくタイピングがしにくい様子であったが、ノートパソコンのキーボードは、溝がほとんどないため、タイピングがしやすく、入力速度が上がっていた。

(写真②、③)

遠くのキーを打つことが困難な生徒は、棒を使ってタイピングに取り組んだ。持ち手部分が長くなると、扱う際に力が必要になるため、軽い木の棒で作成した。(写真④)

車いすのテーブルにキーボードを置くと、問題用紙を置くスペースが無くなってしまい、机に置いてある問題用紙が見にくかったり、パソコンの操作がしにくかったりする。そのような場合には、書見台を使用し、無理なく問題を見ながらパソコン操作ができるようにした。



写真②「デスクトップのキーボード」



写真③「ノートパソコンのキーボード」



写真④「遠くのキーを打つために作成した補助具」
(右側の棒の部分を持ち、左側の丸い突起部分でキーを打って使用する。)

4. 実践の評価 (成果と課題)

(1) 成果

- ・授業時間いっぱいまでタイピングや文書作成の練習をするなど、熱心に学習に取り組むことができた。
- ・練習を重ねるにつれ、タイピングの速度が速くなった生徒がいた。
- ・集中して検定に臨むことができていた。
- ・一般の検定を受けることが難しく、検定を受けたことがない生徒が多いが、この検定には多くの生徒が参加することができ、良い経験になっている。

(2) 課題・展望

生徒の実態に合わせた補助具や環境設定の工夫を継続して行い、検定で身に付けた技術を日々の学習に生かすことができるように授業を工夫する。